

中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2021年 2月 9日

学科・学年 国際教養学科・4年

氏名 谷口 美菜

1. プロジェクト名

動画による中京スケート部アイスショー

2. 活動期間

2020 年 6 月 25 日 ～ 2020 年 9 月 26 日

3. 活動場所(主だった住所・施設名)

中京大学アイスアリーナ

◆プロジェクトの当初予定していた活動内容

- ・有観客アイスショー
- ・スケート教室
- ・ドローン撮影 (個人のプログラム)

◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

当初予定していた活動内容がコロナウイルス感染症の影響を受け、無観客アイスショー、PV制作、それらの動画配信に内容を変更することになった。それに伴い、著作権の問題、SNS上の誹謗中傷の問題が課題となった。その対策として、中京スケート部のInstagramやYouTubeに掲載する写真や動画は、本プロジェクトの担当者が手分けして参加部員一人ひとりに、掲載の許可を得てから投稿することを徹底した。また、YouTubeの動画コメント欄を閉鎖したことで不適切なコメント等の投稿を未然に防いだ。

◆プロジェクトの目標達成度合い（活動内容や到達レベル等を具体的に記入してください。成果物があれば、添付してください。）

目標

- ・PV 1 万回再生
（動画リンク：<https://youtu.be/8pHMD3YS0aw>）
- ・今までスケートにあまり興味関心がなかった方々にも、撮影方法にドローンを使用することでスケートとは違う切り口からも興味を引きつけ、ドローン映像を通じてスケートの魅力を彼らにも伝えること

達成状況

目標としていた1万回再生には満たなかったが、YouTube アカウントをイチから開設し、中京スケート部のチャンネルと中京大学公式チャンネルを合わせて9,000回以上の再生回数を記録することができたのは、スケート部の公式インスタグラムや中京大学のHP等を通じて、PVの告知や宣伝をした結果であると感じている。

〈視聴者の方々から頂いたフィードバック一例〉

スケートファン以外の方々より

「スケートのダイナミックな動きをドローンで更に倍増させたその映像をただで、魅力的な経験をしたかの様な感覚になりました。

「そう！これ（ドローン×スケート）を見たかった！」

「素晴らしい、今まで見られなかったようなダイナミックなドローンを使った映像。新たな可能性を感じました！」

スケートファンの方々

「素晴らしい動画です。私が観たいフィギュアスケートの美しさが、随所に散りばめられています。」

「中京スケート部の様子を見てると、こういう大学の部活楽しそうだなってなる。」

「スピンを回り込んで撮っていくのとかめっちゃ新鮮でめっちゃ面白かった。」

「今までと違う臨場感があるドローン利用すごいです！」

自己評価による達成度 90 %

◆改善点、やり残したこと

- ・部員全員出演ができなかったこと
- ・運営側の負担が大きかったこと

→（理由）：アイスショーとPVの撮影を丸1日ですべて行ったため、日程が合わない部員は出演することができなかった。

→（改善策）：撮影日とショーの開催日程をずらす。

今回実施した（無観客）アイスショーを来年度以降も継続したい。

大学のイベントに合わせてアイスショーを開催、部員の演技を観て頂ける機会を設けたい。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気付きを得たのか

(例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください)

PV制作を通じて、改めてスケートというスポーツの美しさ、中京スケート部の選手それぞれの強み、質の高い練習環境等、中京大学だからこそ持つ魅力を、映像を通じて見て頂けた。

また、本チャレンジの企画・運営者としても、幼い頃からのスケート経験を競技以外の形、動画制作として活かせることは将来の視野を広げるような経験であった。

スポーツのPV撮影を行う時に、制作会社がどのような流れで動くのか、どこにどれだけの人材を配置するのかなど、本プロジェクトを実施したからこそ学びとれたことが多くあった。他にも、業者さんとの日程調整から、打ち合わせ、リハ、本番まで漏れなくすり合わせを行うことは、普段の学校生活ではなかなかできなかったであろう貴重な経験であった。

また、PDCAサイクルを実践的に学び、実行することができた。綿密に企画を練ったためPlanの部分に最も時間を要した。限られた予算の中で、より良いものを作るために委託会社と調整を重ね、関係者のスケジュール調整を行った。実施後は良い評価を頂くこともできたが、新たな改善点も見つかった。来年以降も費用がかからないように工夫し、動画配信やイベントの企画を実践したい。

◆次回チャレンジしてみたいこと

・当初予定していた「アイスショー(有観客)」、「地域の子どもたち向けのスケート教室」今年度はコロナウイルスの影響もあり、実施できなかったスケート教室を開催したい。地域の子どもを対象に、アイスアリーナというアセットの活用、フィギュアスケートの競技人口増加を目的として地域に貢献したい。
※コロナウイルスが終息していない場合は、動画配信に切り替える(スケート靴の履き方、技のコツ等)。

◆チャレンジ奨励金制度を活用したい学生へのアドバイス

プロジェクトの目的、メリット、デメリット、目標を明確にする
独りよがりにならず、仲間や大人に相談しながら事を進める。コミュニケーションの勉強。
企画者自らのためだけでなく、仲間や大学、地域・社会の人に貢献したいという強い思いをもち、責任をもって企画し実行する。

◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。



↑アイスショー終了後の集合写真



↑マイクロドローンの世界を体験



↑ PV 撮影の様子



↑ 打ち合わせの様子（ソーシャルディスタンスを保ちながら）



↑ マイクロドローンで撮影中の横井選手

PV制作と無観客アイスショーを行った。

制作したPVとアイスショー動画はYouTubeにて公開し、PVの再生回数は9,000回越えを達成した。

10月30-31日：中京大学祭（オンライン）特設ウェブサイトにて動画掲載。

12月下旬：広報誌 掲載、11月9日読売新聞 掲載。

閲覧者、部員からのポジティブなコメントを頂いた。

プロジェクト実施にあたりコロナウイルス対策を行った。

選手は検温と体調の記録を毎日記録し、部内管理を徹底した。

リンクには各所、アルコール除菌を設置し、3密回避や手洗いうがい、マスク着用を促す張り紙でリンク利用者へ対策呼びかけをした。

業者さんへも本番の1週間前（8/29 -9/5）より検温と体調の記録管理をしていただいた。

本番撮影時は選手・関係者が密にならないよう、リンクサイドには一定の間隔を保つため、2mおきにコーンで区切りを作った。

演技中の選手を見る際は、マスクを着用し大声での応援NG、間隔を開けて観戦するよう呼びかけた。